

平成 29 年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (楊 梅幼稚園)

<p>1 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員が共通理解を図りながら、年度前半は安全面に重点を置き、のびのびと遊べる環境を構成する。それと同時に、子どもの動きを見ながら、安全な生活、遊びのために必要な決まりを子どもたちと一緒に確かめ、定着するようとする。 子どもの見取りと環境構成の実践、振り返りを P D C A サイクルに位置づけると共に研究的視点を据えて取り組むようとする。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内に危険な個所がないか見て回り、安全確保のための手立てを講じていたか。 安全、安心な園生活のために必要な決まりや心遣いなどを意識した子どもの姿が見られるか。 子どもの姿と環境構成の状況を記録しながら、保育の改善、充実が図れたか。エピソード記述、週案の記述。 アンケート <p>各種指標結果 (1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に移転して間もないころは日々子どもの様子を見ながら危険個所がないか、想定されないか、改善すべき個所がないか注意を払い、情報を共有して改善すべきは改善に努めた。 安全・安心のための約束事など、定着してきている。それらは、週案の子どもの姿、環境設営、指導等の欄の記載から評価できる。 アンケート項目 1 「子どもは有隣園舎の環境や生活に慣れてきている」 2 「子どもは好きな遊びを見つけ遊んでいる」では「概ねあてはまる」以上の評価が 90 パーセント以上。 			
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは徐々に新しい環境や生活にも慣れて、好きな遊びを見つけ友達とかかわつて遊ぶ中でいろいろな体験を重ねているようである。特に、昨年度まで別々の場で過ごしてきた子どもたちが一つになって多くの友達とかかわる中でいっそう成長しているようである。 子どもの姿や保育の振り返りから強みや弱みを浮かび上がらせ、保育の充実を図りたい。 引き続き安全で安心な園環境をめざし、研究の視点をもちながら取り組んでいきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境は整いつつあるが、まだまだ充実した保育を進める上では十分とは言えない。研究を柱により良い環境構成や支援を目指した取り組みを進めたい。 おやじの会や P T A にも協力要請していきたい。 		
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 有隣園舎で新しく生活を始めるることは大変ご苦労が多いだろう。 有隣学区の協力を得ていい環境で、大事にしてもらっている様子がうかがえる。 小学校も統合してよい面がたくさんあった。幼稚園にもいえるだろう。 		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">評価日 10月18日</td><td style="width: 50%;">評価者 学校運営協議会</td></tr> </table>	評価日 10月18日	評価者 学校運営協議会
評価日 10月18日	評価者 学校運営協議会		

各種指標結果（2回目）

- ・子どもの生活ぶり、環境を安全・安心の視点で見て、安全確保のための手立てを講じていたか。（安全点検表）
- ・安全、安心な園生活のために必要な決まりや心遣いなどを意識した子どもの姿が見られるか。（保健日誌）
- ・子どもの姿と環境構成の状況を記録しながら、保育の改善、充実が図れたか。エピソード記述、週案の記述。
- ・アンケート項目3で「概ねあてはまる」以上が90パーセント以上

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・大きなかがもなく、学級閉鎖になるような感染性の疾病が流行することもなく、安全・安心な生活が送れた。 ・京都国際フランス学園との共同生活が始まったが、危惧した混乱もなく、年度当初からの安全や楊梅幼稚園の生活範囲に対する意識付けが定着しているようである。 ・広い運動場の環境を活かし、のびのび元気に体を動かす姿がよく見られるようになり、体力も向上してきたようである。 ・保育室、体育館、運動場が離れているので、目が行き届きにくいため、遊ぶ範囲を限定することになった。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れてきたことで、のびのび活発に遊べるようになった。また、周りが見えるようになり、興味・関心をもつ範囲が広がるだろう。安全に対する意識が薄れないようにし指導すると共に、一層教職員が連携して見守るようにする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・普段の様子をなかなか見ることができないが、スライドや報告書でしっかり取り組んでいることが分かり、うれしい。 ・支援が必要なことには協力する。
	評価日 3月8日 評価者 学校運営協議会

2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

- ・地理的な条件、3年後の移転等を踏まえつつ、下京雅小、洛央小と年間計画を立てて交流を進める。
- ・近隣の小学校との合同研修、参観、幼稚園便り等の交換等を行う。
- ・無理なく「親子で絵本100冊！」の取組が進め、達成の喜びが広がるよう、趣旨説明や方法を保護者と共有して進めるようにする。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・近隣の小学校と情報交換をして年間計画、あるいは個別の交流行事等の計画書を作成できたか。
- ・近隣の小学校とお便り等を交換することができたか。
- ・下京雅小学校との合同研修会をもつことができたか。
- ・「親子で絵本100冊！」の趣旨や取り組みの例やヒントなどを知らせて、取り組みやすいように手立てを講じたか。
- ・アンケート

各種指標結果（1回目）

- ・大まかな年間計画を作成。一部については個別の交流計画書を作成した。
- ・月便り等相互に交換している。
- ・夏季休業中に下京雅小学校と合同研修を実施した。その際、交流の在り方について協議することができた。
- ・「親子で絵本100冊！」の意義や取り組み方について絵本の貸出日や始業式などで保護者に伝える場をもった。
- ・アンケート「幼稚園での絵本の読み聞かせや「親子で絵本100冊」など、絵本に親しむ取組を大切にしている」では「概ねあてはまる」以上が90パーセント以上の評価。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・下京雅小学校との研修会を契機に徐々に教職員間の顔の見える交流が進みつつある。年間計画についてはまだ両校とも自らの取組に追われていることもあり、年間計画やさらにその先を見通した計画は十分には立てられていない。年度後半に子ども同士の具体的な取組を計画しているので、一つ一つ成果を積み重ねていくようにしたい。 ・「親子で絵本100冊」の意義を日常的に伝えてきたが、保護者にとってヒントになるような具体的な取組例の紹介が必要ではないか。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・年度後半には、子どもたちの具体的な交流の取組を進めながら、来年度の年間計画の立案も進めたい。 ・「絵本100冊」については、その意義についてもさることながら、保護者の取組のヒントとなるような取組の紹介をPTAの取組と連動していければよいのではないか。絵本室の環境は度々見直してきているが、更に見直しながら絵本により多く親しめるようにしたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにこんなことをさせたいのだが・・・と要望があれば、情報を提供したり人を紹介したりすることもできる。 ・入学前に小学校を訪問することは意義があるだろう。幼小で交流活動を進めていただきたい。 ・小学校の図書ボランティアが幼稚園に訪問したり、幼稚園のボランティアが小学校を訪問したりするなどできることは様々にあるだろう。
	評価日 10月18日 評価者 学校運営協議会

各種指標結果（2回目）

- ・近隣の小学校と事前打ち合わせを経て交流行事を実施できた。
- ・近隣の小学校とお便り等や情報を交換することができた。管理職を中心に平成32年度に向けての意見交換の場ももった。
- ・「親子で絵本100冊！」は年長組でほぼ達成、年少組で3割の達成。
- ・絵本ボランティアによる読み聞かせの会を持っていただき、子どもたちが集中して絵本を楽しんだ。
- ・アンケート項目6で「概ねあてはまる」以上が90パーセント以上であるが、「あまりあてはまらない」も約10パーセントある。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・下京雅小学校とは地理的に離れているので、度々の交流は難しい。交流は互恵的なものでなくてはならず、カリキュラムに位置づけることも大事であることを確認してきた。幼稚園は保護者の送り迎えを小学校にするなどして子どもへの負担を軽減することにした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本ボランティアによる幼小の保護者による読み聞かせの会を実現できた。来年度はさらに計画的に実施していただくようにお願いしたい。 ・絵本が身近にある環境設定や絵本を取り入れた保育の展開など取り組んだが、年少組での「親子で絵本100冊」の達成者が少なかった。保護者には家庭で絵本を親子で見る意義や、取り組み方のヒントなど交流するなども必要かもしれない。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の年間計画を早い時期から会議をもって策定する。 ・絵本ボランティアの活用を進める。 ・「親子で絵本100冊」の意義について知らせると共に、取り組み方の例について保護者同士が意見交換できる場をもつようとする。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を重ねるごとに園児が小学校に親しみをもち、過度のストレスを感じることなく過ごせるようになってきているようだ。小学校へもスムーズに入学できるだろう。 ・絵本ボランティアによる具体的な取組が始まったのは良かった。ほかの分野でも必要な支援ができるとよい。

3 自ら体を動かす意欲を育て、 基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む

心と体・生活習慣

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」「手洗い・うがい」「咳エチケット」等、家庭との連携を図りながら生活習慣の定着を図る。
- ・他団体とのスケジュールを調整しながら、広い運動場、体育館など活用して、運動遊びが十分にできるようにする。
- ・のびのびと体を動かす遊びが展開できるように、自転車等の乗り物の出し入れ等環境構成を計画的にする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」など、定着させたい基本的な生活習慣を端的に表現して掲示するなど、日常的に意識して定着につながるような取り組みができたか。
- ・子どもの姿を見ながら、安全にのびのびと遊べるよう、環境構成ができたか。週案等の記述。
- ・アンケート

各種指標結果（1回目）

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」等、生活習慣の定着については、始業式等での話やお便り等で保護者の協力をお願いした。また、体重測定の際には保健関係の指導の時間を設けたり、指導に使った教材等を子どもの身近な場所に掲示したりした。
- ・安全にのびのびと体を動かして遊べるよう月例の安全点検を実施すると共に、関係団体、取り分け京都国際フランス学園と施設利用の調整を図った。
- ・体を動かすことを狙った遊びが生まれる環境構成を意図的に進めるよう週案に記載したり、子どもの姿を記録したりした。
- ・アンケート項目3「子どもは体を動かして遊ぶことを楽しみ、幼稚園生活を通して運動の幅が広がり体力がついてきている」では、「概ねあてはまる」以上が90パーセント以上の評価を得ている。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い運動場でのびのびと活発に遊ぶ姿が見られるようになってきている。引き続き安全で安心して遊べる環境を整備していかなければならない。 ・基本的生活習慣の定着は家庭との連携した取り組みが欠かせない。保護者との日常的な情報交換などがより一層進んでいくよう、信頼関係を強めなければならない。 ・長期にわたる欠席もなく、熱中症もなかったことから、健康管理について家庭と連携した取組が進んできているのではないか。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の項目とも関連して、今後もより一層保護者との信頼関係を強めいかなければならない。園側からのより一層の情報発信とともに、保護者側から園側へ話しやすい関係性や条件を整える必要があるのではないか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、小学校では朝の通学路でのいさつに課題を感じていたが、ずいぶん改善された。同様に幼稚園や小学校の課題や教育目標などを地域が共有することで取組に協力できる。

評価日	10月18日	評価者	学校運営協議会
<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ごはん」「手洗い・うがい」など、定着させたい基本的な生活習慣を端的に表現して掲示したり、声を掛けたりするなど、日常的に意識して定着につながるように取り組んだが、アンケートの項目5では「あてはまる」が減少した。しかし、「概ねあてはまる」以上は依然90パーセント以上である。 ・アンケート項目3「子どもは体を動かして遊ぶことを楽しみ、幼稚園生活を通して運動の幅が広がり体力がついてきている」では、「あてはまる」が10ポイント上昇し、「概ねあてはまる」以上は依然95パーセント以上の評価を得ている。 ・大きなかがや長期間に渡る病欠はなかった。インフルエンザ等による学級閉鎖もなかった。 			
<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着させたい基本的な生活習慣については、アンケート項目をより具体的にしたため、表記した具体例についてしっかりと実現したかどうかを判断されたのではないかと考える。実際には登園時間を子ども自身が意識するようになったり、全体的に登園時間が早くなってきたりしている。身支度なども自立し、身についてきている。 ・2学期以降、特に運動場で体を動かす遊びを楽しむ姿がよく見られる。運動会やマラソン大会などの節目の行事だけでなく、その前後にもよく体を動かしているようで、山に登る園外保育でも個人差はあるものの、大きく遅れることなく元気に歩けている。 			
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き基本的な生活習慣の定着については、家庭との連携の下、取り組んでいきたい。 ・挨拶などは、小学校や地域とも連携して取り組んでいきたい。 			

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶などは、家庭でどのように挨拶をしているかも大きくかかわっている。まずは家庭の挨拶から始めなければならない。 ・交流を重ねることで園児は小学校に親しみや安心感をもてるようになったのか、自然な挨拶ができているようである。幼小で連携して取り組む事は大事である。
	<p>評価日</p> <p>3月8日</p> <p>評価者</p> <p>学校運営協議会</p>

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

- ・折に触れて子どものエピソードを話題にして共有することで、子ども理解を進め、教職員とのよりよい信頼関係が築けるようにする。
- ・これまで別々の幼稚園で過ごしていた子どもたちが共に遊び、生活する中で互いを知り、仲間意識が生まれるようにする。
- ・縦割りグループを編成し、遊びや生活の中で効果的に活用する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子どものエピソードを教職員間で折に触れて話題にすることことができたか。
- ・クラス内、学年間で多様な子どものつながりが生まれているか。週案、エピソード記述。

各種指標結果（1回目）

- ・研修会等の特設の情報交換の時間だけでなく、朝の打ち合わせや関係者が顔をそろえた時間などこまめに子どもの情報を交換、共有し、教職員で協働して子ども理解や保育やフォローに当たった。
- ・子どもについてのエピソード検討を行い、保育の在り方について共通理解を深め、取組の充実を図った。
- ・クラス内や学年間、保育時間終了後の預かり保育の場などで様々な子どもの関わりが生まれる環境づくりや支援を行い週案等に記した。
- ・アンケート項目4「人に対する信頼や思いやりの気持ちを育てる上で大切な、友達との関わりや葛藤やつまずき等体験している」では「概ねあてはまる」以上が90パーセント以上の評価。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">・元のひよこ組、たんぽぽ組の枠にとらわれず子どもが過ごしている様子を保護者も感じておられるなど、新しい仲間と新しい環境で新しい生活を自分のものとして楽しめるようになってきているように思われる。・年長児は園の最高学年としての自覚が高まっている。年少児もクラスでのまとまりやグループでの仲間意識の高まりがみられるようになってきている。その中で自律性が育まれていく。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">・年度前半の取組、運動会に向けての生活の中で高まってきた教師と子どもとの信頼関係、グループ、学級、園全体での仲間意識などを踏まえ、それらの上により一層人間関係の高まりをみたい。子どもの関わりの様子をエピソードとして取り上げ、共有して取り組みの充実を図りたい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・統合等になると、不安の声、不満の声などいろいろある。マイナス面を指摘する声もある。しかし、根底にはそれが子どもにとってどうなのか？子どもが輝けるものなのか？・・・があるはずである。
	評価日 10月18日 評価者 学校運営協議会

各種指標結果（2回目）

- ・子どもの情報やエピソードを朝の打ち合わせ時や職員会などで教職員間で話題にすることできた。
- ・クラス内、学年間で多様な子どものつながりが生まれることも考え、意図的なグループ分けなどを行った。
- ・アンケート項目1「子どもは、様々な遊びや感情体験を通して人間関係が広がり、友達意識が強まっている」では、「概ねあてはまる」以上が100パーセントの評価となった。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの情報やエピソードを共有することで、教職員がそれぞれの目で子どもを見られていた。成長の姿を共有できた。 ・様々な機会に意図的な学年内や学年間のグループ編成をすることで、子ども同士のつながりが強まっているようである。遊びをまねたり取り入れたりする、教えるなどで遊びの幅が広がってきてているようである。運動会や生活発表会などで付けた「みんなでよいどん」というスローガンもよかったです。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・葛藤や折り合いについてさらに丁寧にエピソード記述することで取組の成果が検証できるだろう。 ・有隣園舎での、新しいメンバーでの生活に一定の落ち着きが見られるようになった。この上により充実した保育が進められるようになると同時に、平成32年度を見据えた取り組みも考えていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・よい取組の様子が見られてよかったです。楊梅幼稚園に将来入園させたいという親御さんがすでにおられる。幼稚園の取組の様子を知ることで、入園を薦めることもできる。学校運営協議会はこのように幼稚園の情報を得ることができる場である。 ・未就園児に対する子育て支援の取組のチラシなど、地域に配布したり、施設に配架したりなどして、多くの未就園児をもつ保護者にアピールするようにする。
	評価日 3月8日 評価者 学校運営協議会

園独自の項目

- ・元有隣小学校、有隣学区、下京雅学区、洛央学区、下京区・・・地域の魅力、教育的な物的、人的資源を活用し保育の充実を図る。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・元有隣小学校の施設を活かし保育の充実が図れたか。
- ・有隣学区の地域行事等の参加機会を活かすことができたか。
- ・伝統的な地場産業等に触れる機会をもつことができたか。
- ・お茶会、餅つき等地域の人材を活かし保育の充実が図れたか。
- ・アンケート
- ・週案等の記述

各種指標結果（1回目）

- ・各種団体等のご理解やご協力を得ながら、また9月からは京都フランス学園とも調整しながら、運動場や体育館を十分活用できている。
- ・有隣学区の夏祭りや体育祭などにお誘いを受け、園児の姿を披露させていただいた。
- ・京扇子づくりに従事なさっている方をゲストティーチャーに、京扇子の絵付け体験をさせていただき、一人一人に扇子を仕上げていただいた。

- ・お泊り保育でのキャンプファイバーの火の見守りや見回り等消防団にお世話になった。
- ・アンケート項目7「幼稚園は地域とのつながりを大事に教育活動を進めている」では「概ねあてはまる」以上が90パーセント以上の評価。
- ・取組の様子はお便りやホームページなどで知らせるようにした。

自己評価	分析（成果と課題）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・有隣園舎、環境の中で、また、有隣の地域の方々にあたたかく迎えていただき、有隣園舎ならではの保育が可能となってきている。移転に不安を覚えておられた保護者も安心していただいているようである。 ・地元の催し物に参加させて頂いたり教育的資源も掘り起し活用したりできた。 ・京都国際フランス学園とは出会いの会を皮切りに大きな混乱もなく生活を送っている。 	
分析を踏まえた取組の改善		
<ul style="list-style-type: none"> ・有隣学区の地元の方々には幼稚園の存在をずいぶん認知していただくようになっているが、より親しみを持っていただけるよう広報していきたい。 ・同時に、下京雅小学校の地域の方々と疎遠にならないような手立てを講じる必要があるだろう。 ・京都国際フランス学園との交流を徐々に深める具体的な交流活動を進めていきたい。 		
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	

各種指標結果（2回目）

- ・元有隣小学校の広い運動場は運動遊びなどの保育の充実につながった。アンケート項目3「子どもは体を動かして遊ぶことを楽しみ、幼稚園生活を通して運動の幅が広がり体力がついてきている。」では、「概ねあてはまる」以上が95パーセント以上。
- ・有隣学区だけでなく、これまでからお誘い頂いている子ども向けの地域の行事等に親子で参加することができた。
- ・扇子や牛若丸伝説など地域の伝統的、歴史的な教育資源を保育に取り入れることができた。
- ・お茶会、餅つき等で地域の人材を活かし保育の充実を図った。
- ・マラソン大会を鴨川河川敷で実施するなど身近な環境を保育に取り入れた。
- ・アンケート項目7「幼稚園は、広く地域の方々に見守られながら、地域の良さを活かし、教育活動を進めている。（行事へのお誘い、ゲストティーチャー、鴨川、伝統文化、他）」では「概ねあてはまる」以上が100パーセントの評価。前期にあった「あまりあてはまらない」がなくなった。

自己評価	分析（成果と課題）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の物的、人的資源を意識し、活用した保育や取組が進んだ。また、そのことを保護者や地域にアピールし、広めることで、幼稚園の取組への理解が進んだのではないか ・2学期から開園した京都国際フランス学園との交流はまだ手探りの状態であった。 	
分析を踏まえた取組の改善		
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の良さ、強みを掘り起し、保育に生かしていきたい。 ・京都国際フランス学園との交流をより一層進めていきたい。 		
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	

- ・おやじの会等の取組に親子で参加して楽しんでいただいている姿が見られた。今後も違うジャンルでの催しも開き、参加を呼び掛けたい。
- ・幼稚園と小学校とが連携して取り組んでいるということをもっと知らせたらよい。幼小が切れ目なく保育、教育を進めていることをもっとアピールしたらよい。
- ・子どもの人数も増え、活気が感じられる。素晴らしい取組の様子を知ることができたが、これに満足することなく引き続き取り組んでいってほしい。協力を惜しまない。

評価日 3月8日 評価者 学校運営協議会